



「いじめ」に思う

—もんもんとする目々の中で 1/3—

吉成 タダシ (ストーリーライター)



私はこれまで中学校現場で、いじめや部落差別をなくしていく取り組みとして人権学習を行ってきました。その内容は多岐にわたります。部落問題では、食肉や芸能、同和教育運動などについて。ときには映画や演劇、DVDを鑑賞したり、現地研修や作品制作、演劇活動や交流会を催したりなど。また、ハンセン病問題やアイヌ民族問題、在日コリアンの方や障がい者の方の問題、いじめ問題や平和問題など、ありとあらゆる社会問題について考えたりもしてきました。内容によっては、子どもたちには難しく、失敗したと思うこともありました。それでも、「教師側の熱意だけは伝わったのでは」と、自分を慰めたりしながら取り組みできたように思います。

ある年の体育祭で

体育祭の三年生種目にクラス全員参加の対抗戦で行われる長縄跳びがありました。本番に向けて、体育の時間等を利用して、「この時ばかりは！」と各クラスが練習に取り組んでいきます。しかし、なかなかうまくいかない我がE組。そこには、運動の苦手なマユの存在がありました。

マユは今で言う、「特別な支援

を要する子」。でもマユは、いつもニコニコで笑顔いっぱい。そんな女の子でした。ときには甘えて、「できない」と言うこともありました。でも、周りの子たちは、決して甘やかすことはしませんでした。できないことがあれば一緒に頑張っていたし、もしいけないうことをしていれば、それはいけないうこととして、許してはいませんでした。ときにはやんちゃな男子が、マユをいじって小馬鹿にすることもありました。でも、マユは黙っていません。「何よー!」と、あたり構わず食ってかかっていきます。また、周囲にいた女子も同様に、男子をやり込めてしまいます。そんな光景が、何とは無しに見ていて微笑ましく、愉快なものでした。

さて、長縄の練習です。練習に取り組みはじめたころ、ある子が、次のような日記を書いてきました。「今日の体育は、クラス全員で長縄跳び練習をしました。最高五回。マユが何回もこけて、泣いて途中でやめようとしたけど、『みんなで跳ばないと! マユが外れちゃダメ!』と励まし合ってできました。E組になって全員が一つになれたなって感じました。先生にも見せたかったな!」

マユとは隣同士で手をつな

いで私が、『はい!』って言ったら跳ぶようにしているのだけど、マユに、『はい!』って言ったのと同じ時に私が跳ぶと今度は私が引つかかってしまいます。マユがせっかく上手くなったのだから私が詰まってしまいました。』

一回以上の記録が

そうして迎えた体育祭当日。長縄跳びの種目の直前に、三年生女子の種目がありました。苦しそうにトラックを走っていくマユの姿が目に入りました。私は、「体力的に大丈夫か!」と不安を感じずにはいられませんでした。

そして、いよいよ長縄跳びです。三年生五クラス全員が、トラックの中央へと集まっています。二回ずつの試技の一回目を、A組から順番に、B組、C組と進んでいきます。いよいよ、E組の番がやってきました。しかし、静まりかえったトラックの中央で、なかなか試技が始まりません。少し離れた場所で見ている私が走り寄ると、マユが、「いやー!」と言って、泣いて立ちすくんでいるのでした。周りにいたクラスメイトは困惑していました。それでも私は、子どもたちの可能性を信じ、じっと見守っていました。すると、一人が声をあげました。「がんばろう! マユが跳ばなかったら意味がない!」涙

を流しながら、飛び出た言葉でした。「勇気出さないと!」「今までがんばってきたじゃない!」「みんなのために跳んで!」、時間にすれば短い時間だったと思いますが、その輪は大きな波紋のように広がっていきました。

しかし、残念ながら一回目は、「棄権」することになりました。

二回目の試技が、再びA組から始まっていきます。「順番が来るまでに、どうにかして説得を!」という思いからでしょうか。整然としていた列を乱し、さらに多くの者が励ましの声をかけ、涙を流していきました。他のクラスが何回跳んでいようが、そんなことはどうでもいいことのように思えました。声や涙が出ない者もいました。でも、すべての者が、熱い思いで、あたたかな眼差しで、その状況をじっと見つめていました。

順番がやってきました。しかし、マユは頑として跳ぼうとはしません。跳ぶのか、跳ばないのか。二回目も「棄権」という選択もありましたが、結局マユは私の横で佇み、一名を欠いての跳躍をみんなに促しました。記録は、「一回」でした。歯を食いしばって涙で前が見えない中で、悔しさを堪えて跳んだ記録でした。

しかし、その日の日記は、それが精一杯、自分なりに考え、悩み抜いて書いた、「一回」という記録以上の記録となり私の手許に残っています。(続く)